

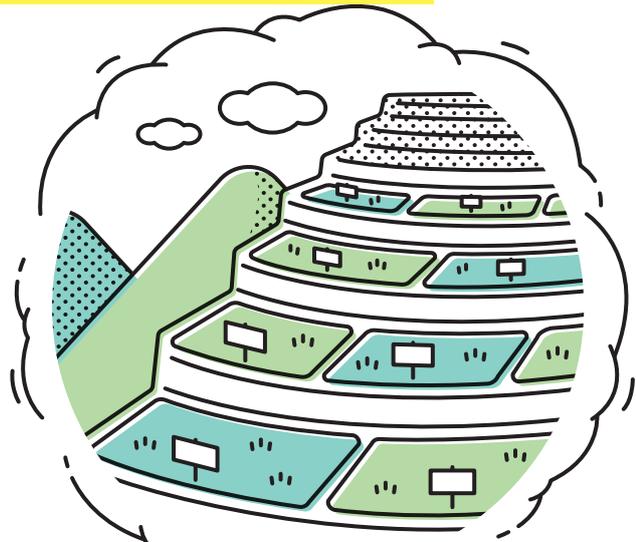
Q 伝統的な日本の農村は
このまま消えてしまうの？



**景観を守るため、棚田などを利用した
地域活性化の取り組みが行われています。**

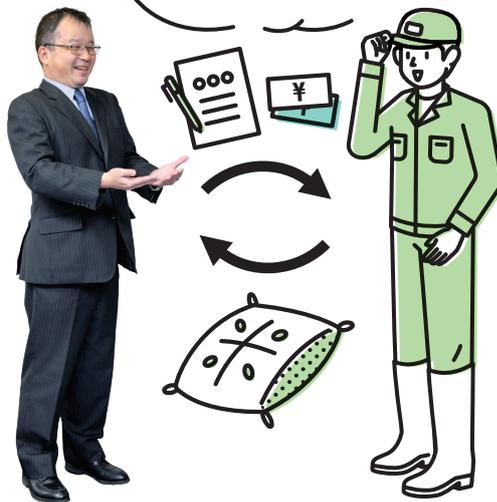
**田畑が荒れてしまう理由は
地域によってさまざま。**

以前は田畑であったものの、過去1年以上作物を栽培しておらず、今後も数年の間に再び耕作する考えのない土地である耕作放棄地。それがなぜ発生するかについて、岐阜県内を中心に、集落ごとの特性と関連づけてデータを計測し、地域による発生要因の違いなどを明らかにしてきました。たとえば、高齢化が進んでいる農村は耕作放棄地が発生しやすいと言われていますが、お年寄りが多くても見回りをしやすい地域であれば、世間体を気にして田畑を耕す習慣は続きます。一方で山間地域の場合は、人の目が行き届きにくいので耕作放棄地になりやすいといった傾向が見られます。



**美しい日本の農村景観を
取り戻すために。**

近年、国土・自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など、農業を行うことによる農産物の供給以外の多面的な機能といった点から、地域資源として田畑を再評価し、適切に管理・利用していくことが求められるようになってきました。その取り組みとして、棚田オーナー制度のような都市農村交流が行われています。現在私は、棚田オーナー制度による地域活性化についても研究。このような制度に積極的に参加するのはどのような人たちか、また、環境に対してどんな考え方・意識を持っているかなどを調査。棚田オーナー制度の効果的な推進に繋がりたいと考えています。そして、「美しい日本の農村景観を取り戻す」という大きな目標達成に向け、研究を続けていきたいと思っています。



平見 慎太郎 先生

Hirako Shintaro

高校1年生の夏休みに「日本の食料自給率が50%しかない」というニュースを見たことがこの道に進むきっかけになった気がしています。大学に入学した時点で農業経済を専攻すると決めており、自然な流れで大学院に進学し、研究者になりました。

私の気分転換



**仕事につながる
リフレッシュメニュー。**

そのときの状況によりいろいろですが、大きな書店・文具店・喫茶店をハシゴする街歩きや、カメラと時刻表を持って日帰り鉄道旅行という趣味と実益を兼ねたメニューでリフレッシュしています。